

## 学問のすすめと西洋

22211017 安藤瑞基

このスライドでは、学問のすすめの文節で西洋に関連する節が多くありそれについて詳しく調べあげた。この部分を選んだ理由としては、当時自分が知らなかった日本と西洋を学問のすすめを通して大まかに理解でき、もっとこの関係について調べようと思ったのがこの部分の理由である。

当時の西洋と明治維新後間もない日本を比べてみることで、政治体制から人格の形成まで、幅広い視点から福沢が日本に足りない部分を伝えることでわかりやすく受け入れられる。福沢による西洋の見解と日本の成長のためには、学問を志すこと。このためには、西洋を知り一身の独立をすることで一国の独立ができる。

自分が学問のすすめの文節をいくつかとり挙げ、自分独自の西洋の調べその説について自分が思うことを述べた。

調べあげ、福沢は西洋に非常に精通しておりそのほかアメリカ、文化、産業の発展なども理解し、学問のすすめにおいての「天理人道」と結びつけ考えられていたことがわかった。その他にも、戦国時代の日本とフランスとプロシアの戦争を比べそれぞれの勝因と敗因は独立気概、一身の独立に関係していることを述べていたことがわかった。福沢が日本と外国を比較する理由では、人間の品格を高め学問の知恵を外国と競いあうことで、日本の地位を高めることを目指していたことがわかる。

この調べで思うことは、西洋と比較し学問の大切さを強調することで日本国民が政府に対する行いを学問のすすめで多くの人に伝え、国民の気風や独立の気概を守ることで現代の日本が福沢の思想そのものになったと思いました。